

図書を生かした学校づくりについて

1 図書を生かした学校づくりを目指す

図書を活用した教育は、学力向上だけでなく、豊かな人間性や創造力の育成にも大切である。

今後は、生涯学習センターや学校の図書室を最大限に活用し、学校と地域が一体となった学びの場の充実を目指していく。

- ・ 個別最適な学びと図書の活用

生涯学習センターを活用した学習支援を強化し、子どもたちが自分のペースで学び、成長できる環境を提供する。

- ・ 地域との協働的学びの推進

地域の文化や歴史を学ぶために、生涯学習センターの資料や地域住民との協力を活用した探究学習を進める。

- ・ 生涯学習センターとの連携強化

生涯学習センターと学校の図書室が連携し、未就学児への読書支援を強化するなど、地域全体で学びを支える環境を構築する。

これを推進することで、本市の学校教育はさらに魅力的で充実したものとなり、未来に向けた新たな展開が期待される。

2 本市のこれまでの取組と実績

本市では、「学び楽しむまちづくり」を基本理念に掲げ、家庭・地域・学校が一体となった子ども育成を進めてきた。

- ・ 地域との連携強化

地域学校協働活動や学校運営協議会を通じ、学校と地域が一体となった教育活動を実施してきた。

- ・ ICT教育の充実

ICTを活用し、子ども一人ひとりに最適化された学びを提供してきた。

3 生涯学習施設（図書館）の活用

- ・ 図書の貸出実績

県内でもトップクラス（県内 3 位）の人口一人当たりの貸出実績を誇り、地域住民が積極的に学びに関わっている。

- ・ 地域の学びの拠点

生涯学習センターは、生涯学習施設として子どもから高齢者まで幅広い世代が利用できる学びの場となっている。

- ・ 未就学児への読書支援・読み聞かせ活動

子どもたちの言語能力や思考力を育むため、生涯学習センターでの読み聞かせ活動を推進している。親子向けイベントを通じて、読書習慣を育て、学力向上にもつなげている。

4 まとめ

市では、目指す学校の将来像として、「個別最適な学び」、「協働と創造の学び」、「安心・安全で快適な学校環境」という 3 つの柱を中心に、教育の質を高めていくことを考えている。

これらの柱に本市の特色を加えるには、図書を生かした教育が大切な要素となる。

生涯学習センターの活用により、読書習慣の醸成や探究的学びを支える環境を整備し、地域との連携をさらに深めることが重要である。

また、学校再編で校舎を新たに整備する場合には、地域の住民も学校の図書室を利用できる仕組みを検討し、学校と地域が一体となった学びの環境を広げていく。

図書を生かした教育を推進することで、子どもたちが豊かな人間性と創造力を育み、将来にわたる学びの力を高めることが期待できる。

この方向性を進めることで、子どもたち一人ひとりが豊かに学び成長できるよう、より魅力的で充実した教育の実現を目指していく。